

ブリティッシュ・カウンシル

「総合的な英語力」を育てる English Rich な授業 グッドプラクティス・アワード 募集要項



2025 年 1 月

English Rich な授業とは、教師・生徒の双方が豊かに英語を使用している授業のこと。日本語を効果的に使用することを含め、教師の使用する英語が質・量ともに充実することで、教室での言語活動が活発に行われます。

学習指導要領では、「(略)授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること」とされており、同等の趣旨が盛り込まれています。

募集概要	<p>学習指導要領(外国語科)においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の 4 技能 5 領域で、CEFR を参照した目標や活動例が設定されています。そして、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成する過程を通して、実際のコミュニケーションの場面で活用できる総合的な英語力を育成することとなっています。中学校・高等学校では、授業は英語で行うことが基本です。これは授業を「生徒が英語を使う場」にすることを目的としています。そのため、対話的な活動、言語活動や技能を統合的に扱う活動を中心とした授業となることが求められています。</p> <p>学校では、学習指導要領の趣旨に沿った、コミュニケーション重視の授業改善が進んでいます。政府の定める CEFR の目標値に到達する生徒の割合は増加傾向にあり、文部科学省や自治体等の学力調査、英語の資格・検定や進路実現においても成果が見られるという報告が数多く寄せられています。大学入試に関しても、共通テストにおいては実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視しています。</p> <p>その一方、「話すこと」や「書くこと」の発信力について課題が報告されています。特に中学校では、小学校と接続した「書くこと」の指導への悩みが聞かれます。また高校においては言語活動が高度化する中、「やり取り」について効果的な指導方法に課題を感じている声があります。改善の成果においても、地域間格差が報告されています。</p> <p>この度、以上の状況を踏まえ、4 技能 5 領域において「実際のコミュニケーションで活用できる総合的な英語力」育成を行っている、English Rich な授業¹の実践事例を募集します。English Rich な授業では、教師と生徒の双方が英語を使用し、特に教師の英語の質が充実しており、授業の進め方に様々な工夫や配慮が見られます。そのような好事例を顕彰及び公開することにより、グローバル社会における日本の英語教育の進展に貢献する取り組みです。</p>
対象となる 実践事例	4 技能 5 領域において、実際のコミュニケーションで活用できる総合的な英語力を育てる実践で、 <u>成果</u> が見られる事例。
応募資格	中学校・高等学校・中等教育学校・義務教育学校(後期課程)・特別支援学校(中等部・高等部)で指導する教師。学校単位でも可。
賞	<ul style="list-style-type: none"> ● ベストプラクティス・アワード 特に優れた実践 5 例程度に商品券 3 万円(VISA ギフトカード) ● グッドプラクティス・アワード 優れた実践 30 例程度に記念品 <p>ご応募いただいた方全員に参加記念品をお送りします。</p>
募集期間	2026 年 1 月 25 日～3 月 31 日まで
主催	ブリティッシュ・カウンシル
後援	文部科学省(申請予定)

¹ “English Rich”な授業とは、教師の英語が質・量ともに充実し、生徒が英語を使う機会が多くある授業のこと。教師の英語の質に注目し、効果が高い指導技術やアプローチを採用したり、日本語を効果的に使用する等により、生徒が英語を豊か(rich)に使う授業を実現できる。[English Richな授業づくり | ブリティッシュ・カウンシル](#)

応募に向けたメッセージ

英語教員の皆さまへ ご応募をお待ちしております！

この 10 年で学校の英語教育は大きく変わりました。生徒が英語を使って自分の経験や思いを伝えたり、他者と意見交換するなど、様々な言語活動を通じて、生徒の英語で「できること」が増えている様子が各方面で伝えられています。

ブリティッシュ・カウンシルはこれまで文部科学省や教育委員会等と協働し、日本全国で実践的な指導力研修を数多く展開し、English Rich な授業づくりを推進してきました。研修を受講された先生方からは、「生徒の学習意欲が上がった」「即興で話す力がついてきた」等、授業改善の成果を伝える声を非常に多く頂戴してきました。

これらの変化は、先生方ご自身が使う英語や指導技術を工夫し、生徒の学習意欲を高め、達成感を味わえるように、授業改善を重ねてこられた成果にほかなりません。

今回の募集においては、先生方が日々の授業で、どのような工夫や配慮をされたのか、また取り組みを通してどのような成果を感じられたのかを、実例とともにぜひお寄せいただきたいと思います。先生方からのご報告は、日本各地で、子どもたちの「総合的な英語力」育成を着実に進めていくための、貴重な学びであり大きなステップとなります。皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

応募必要事項

タイトル	どのような授業実践をおこなったのか、わかりやすく伝わるタイトルを記入してください。20 字程度。
授業実践の概要	授業実践の目的や内容等が理解できるように記載してください(実践期間は半年から 1 年程度を目安とし、過去 3 年程度以内に実践したもの)。200 字以内。 例: 授業改善を行う前の生徒のニーズや課題、その取り組みによる改善結果
授業実践の詳細	授業実践の詳細を具体的に記載してください。1000 字程度。 例: 教師が実践した指導アプローチ、生徒に対する支援や配慮、生徒の学習活動、生徒の成長・上達の見取り、指導改善において基盤となった根拠
評価方法	授業実践の目標達成に対する評価方法について簡潔に記述してください。 実施されていない、される予定がなかった場合は、どのように評価するのが良いとお考えか、ご記入ください。
授業実践の成果	授業実践を行った結果、どのような影響や変化があったのか、また期待していた成果が得られたかどうかなどを、具体的に記載してください。1000 字程度。 例: 生徒の英語力向上の詳細、改善を把握した評価方法、生徒の英語学習に対する意識や態度の変容、同僚や学校からの評価 以下の 2 点を含めて記載してください。 <ul style="list-style-type: none">定性的な観点: 形成的評価や授業観察の記録、生徒の声、実践記録等。定量的な観点: 客観的な情報やデータ(英語の資格・検定、自治体の学力調査、授業評価など)。(※必ず数字を用いて成果を示してください)
今後の展望など	今後の展望や目標などについて記載してください。200 字程度。
追加資料	追加資料がある場合、メールで別送いただくことが可能です。 例: 生徒の改善を示すデータ(生徒が書いたもの、話したもの)、英語の資格・検定結果の詳細、生徒の意識調査詳細、同僚・生徒・保護者等からの声)

応募先

次のホームページ URL からご応募ください。

<https://www.britishcouncil.jp/programmes/english-education/award>



応募にあたっての注意

- 応募いただいた資料はご返却いたしません。
- 審査は外部専門家を含む「選考委員会」の選考により行います。
- 審査のポイントについては、「応募必要事項」に例示しておりますので、ご参照ください。成果が見られる授業においては、「思考・判断・表現することが繰り返し含まれている」、「目的や場面、状況などが設定され、意味のある文脈で活動が展開されている」、「学びの過程を重視している」、「支援的な環境づくりがされている」等、多くの指導的配慮が見られます。先生方がどのような指導上の工夫をされたのか、その結果生徒にどのような変容が見られたのか等をご報告ください。
- 応募いただいた内容は、「事例集」に掲載させていただくことがございます。掲載においては事務局で編集する場合や、ご入力いただいた文章がそのまま公開される場合があります。そのため、公開の際に個人が特定されることのないよう、記載内容には十分ご注意ください。また、公開にあたり何らかの配慮が必要な場合はその旨お知らせください。